

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(4)-ウ	優れた人材を育み地域の発展に寄与する高等教育の推進	施策	① 大学等の教育研究環境の充実及び地域貢献活動の促進
			施策の小項目名	○教育環境及び共同研究の充実
主な取組	県立看護大学運営・施設整備			
対応する主な課題	①少子高齢化、グローバル化などを背景に多様化・複雑化する社会的、時代的要請に的確に対応できる専門的な人材を養成していくためには、県内大学等の独自の理念を掲げた学校運営を尊重しつつ、ニーズに対応した特色ある教育研究を促進するほか、高等教育を受ける機会の創出・環境整備等の諸施策にも取り組む必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
県立看護大学の円滑な運営を図り、教育及び学術研究等に安全で良好な環境を提供する。		100% 国家試験 合格率				→
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	保健医療部保健医療総務課		【098-866-2169】			看護大学の運営、必要な施設の整備、教育研究に係る取組

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	県立大学運営費、看護大学施設等整備費、高等教育環境整備事業						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度： 高等教育機関として県立看護大学を運営し、本県の保健医療の向上に貢献する看護師、保健師、助産師の育成を図った。
県単等	直接実施	246,880	207,258	181,437	207,600	196,964	174,089	県単等	OR3年度： 高等教育機関として県立看護大学を運営し、本県の保健医療の向上に貢献する看護師、保健師、助産師の育成を図る。
予算事業名	—						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度： —
		—	—	—	—	—			OR3年度： —

様式1(主な取組)

活動指標名	看護師国家試験合格率				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	98.80%	100.00%	97.40%	98.59	100	100	100.0%	196,964	順調	<p>国試ガイダンスは緊急事態宣言等の影響により学生へ遠隔配信した。学生と教員で年間計画を立てた。感染対策を実施し希望する学生へ図書館を専用利用として、勉強に集中できる環境を整えた。万全の体調で国試に臨めるよう勉強の進捗状況の把握や生活の仕方について助言した。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>国家試験対策講座を9月と1月に遠隔で開催し、9月は、実習中の者を除く58人中の20人から32人程度の学生が参加した。1月は翌月の国試に向けて特定の領域に絞り開催し、40人から46人程度の参加があった。教員は遠隔で対応可能な時間枠を確保して、学生の質問に答えていた。新型コロナウイルス感染拡大の影響の中でも学生の地道な努力と教員の熱心な指導により全員が合格できた。</p>
活動指標名	—				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
活動指標名	—				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・1月の国試対策講座について、学生のニーズに合致した内容になるよう、工夫と改善をはかる。 ・複雑な問題だけでなく基本的な問題にも取り組み、幅広く知識を身につけるとともに、基本的問題を確実に解けるよう勉強に取り組むことを指導する。 						<ul style="list-style-type: none"> ・1月の国試対策講座は、学生から不安の声があった領域に焦点を絞った。県内の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の高止まり状況にあった中、遠隔実施は適切であった。 ・本学図書館サイトにオンラインでアクセス可能な国試過去問に取り組むことを指導した。 ・感染拡大の中で実施される国家試験に不安もあった様子だが、定期的に教員から情報発信と勉強進捗状況と生活上の留意点について連絡することで、落ち着いて勉強に取り組むことができた。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・遠隔実施を工夫して取り組み、感染拡大状況を注視しながら希望する学生へ図書館の専用利用等感染対策を実施した上で学びの場を確保した。

○外部環境の変化

新型コロナウイルス感染拡大により、3密を避けるため、対面授業や医療施設等での実習が困難となった。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・9月と1月に開催した国試対策講座の9月の講座は、新型コロナウイルス感染拡大の休校措置で他学年の授業や期末試験が9月上旬までずれ込んだため、例年の8月実施から時期を変更せざるを得なかった。そのため実習に重なり受講が難しい学生もあり、時期をずらして可能な限りサポートを行うようにしたが、全ての学生に等しく受講する機会を設けることは難しかった。

4 取組の改善案 (Action)

・新型コロナウイルス感染拡大等の状況を注視しながら、遠隔実施や個別対応により可能な限り学生へ国試対策講座を受講できる機会を設ける。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(4)-ウ	優れた人材を育み地域の発展に寄与する高等教育の推進	施策	① 大学等の教育研究環境の充実及び地域貢献活動の促進
			施策の小項目名	○地域貢献活動等の促進
主な取組	県立看護大学における地域貢献			
対応する主な課題	②また、大学等の社会貢献が求められる中、大学等が持つインフラや生み出した優れた研究成果等を県民生活の向上やものづくり産業振興に結びつけるなど、高等教育機関と産業界や地域等が連携し、地域社会への還元につながる取組を促進する必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
県立看護大学における地域貢献として、県民を対象とした出前講座、公開講座、離島講座等を実施し、地域社会へ還元する。						
実施主体		一般県民を対象とした出前講座、公開講座、離島講座等の実施				
県						
担当部課【連絡先】	保健医療部保健医療総務課 【098-866-2169】					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	看護大学運営費						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
県単等	直接実施		58	194	338	101	485	県単等	OR2年度：離島講座を実施する予定で準備・調整等を4回実施したが、コロナ禍で講座は実施できなかった。 OR3年度：コロナの状況等を踏まえながら、公開講座、出前講座、離島講座の実施を工夫していく。
予算事業名	—						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
		—	—	—	—	—	—		OR2年度：— OR3年度：—

様式1(主な取組)

活動指標名	県民を対象とした出前講座、公開講座、離島講座等の実施				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	25	24	26	26	0	25	0.0%	101	未着手	<p>活動概要</p> <p>本学では性教育出前講座やDV被害者支援講座、離島のケアシステム構築支援に係る研修等多岐にわたる講座を開催しているが、令和2年度はコロナ禍で実施できなかった。その他、県、市町村、看護協会や市町村等の関係機関での人材育成、保健医療福祉に関する計画策定に参画し、地域の健康づくりに貢献している。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>社会の多様化、超高齢社会の推進等により本学の地域貢献の取組もその多様化や高齢化が求められている。そのため、研修会や講座の開催、地域の保健医療福祉計画の策定への参画を毎年継続することが必要となる。しかしながら、その取組の効果について短期間で評価しづらい。</p>
活動指標名	—				R2年度					
実績値	—	—	—	—	—	—	—			
活動指標名	—				R2年度					
実績値	—	—	—	—	—	—	—			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度 of 取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県の広報媒体や本学のHPを活用し、講座等の周知を図り、県民の参加を増やしていく。 ・ 講座等開催時にアンケートを実施し、県民ニーズの把握に努める。 						<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度は新型コロナウイルスによる感染拡大防止のため、出前講座等がほとんど開催できなかった。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・本学は教職員が少なく、授業や研究等で多忙であり、出前講座等開催を増やすには時間的な制約がある。

○外部環境の変化

・新型コロナウイルスによる感染拡大防止のため、出前講座等がほとんど開催できなかった。

・コロナ禍により県民の健康への意識変化もあることから、そのニーズを把握することが必要である。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・当面、新型コロナウイルスが収束しないものとして、今後、3密に配慮のうえ新たな公開講座の開催方法(代替企画)について検討する必要がある。
- ・withコロナ時代に求められる県民のニーズを把握する。

4 取組の改善案 (Action)

- ・タイムリーな話題として、新型コロナウイルスの感染予防の周知啓発動画を配信し、県民に公開講座の周知を図っていく。